



熊本大学文学部オープンキャンパス 2025

概要

(日時) 2025年 8月 2日(土) 13:00～16:30 ※ 受付は12:00開始
(場所) 熊本大学 黒髪北キャンパス 文・法学部棟
(対象) 生徒(高校2年生以上:定員800人)およびその同伴者(1名まで)。 ※ 事前申込制

1. 学部説明+模擬授業(生徒のみ参加可)

当日の動きや文学部について説明したあと、教員によるミニ講義(各30分)を行います。

- ・ 次ページの授業概要を参考に、事前申込時に1コマ目(授業①)の教室・コースをお選びください。
- ・ 2コマ目は同じ教室の模擬授業を受講しても、空席のある別の教室に移動しても、模擬授業を受けずに研究室訪問に行ってもかまいません。

A1 教室: 人間科学コース/地域科学コース

授業① 13:20～ 「心を哲学する」(大辻 正晴)

授業② 14:00～ 「「お祭り」はなぜ続けるべきか?」(及川 高)

A2 教室: 歴史資料学コース/超域歴史学コース

授業① 13:20～ 「考古学ってどんな学問? 古墳時代ってどんな時代?」(杉井 健)

授業② 14:00～ 「中国の皇帝制度とその発達」(小林 晃)

A3 教室: 現代文化資源学コース

授業① 13:20～ 「映画を分析的に見てみよう」(伊藤 弘了)

※この会場は2コマ目の授業を行いません。他の会場に移動するか、研究室訪問をお楽しみください。

B1 教室: 欧米言語文化学コース/東アジア言語文化学コース

授業① 13:20～ 「ドイツ語への招待 ―言語と社会のつながりを考えよう―」

(トビアス・バウアー)

授業② 14:00～ 「歌われる漢詩、読まれる音楽 ―中国古典詩と音楽―」(屋敷 信晴)

2. 研究室訪問(生徒・同伴者とも参加可)

文・法学部棟内には、学生のための研究室が用意されています。興味のある分野の研究室を訪ねて、大学生活や研究について自由に質問してみてください。先輩や教員が皆さんを楽しみにお待ちしております!

※ 同伴者(生徒の保護者・引率者)用の控室も設けます。

※ 参加者の皆さまには、十分な熱中症対策および感染症対策にご協力をお願いいたします。



模擬授業概要

A1 教室： 人間科学コース／地域科学コース【定員 255】

授業① 人間科学コース「心を哲学する」（大辻 正晴：哲学）

慣れ親しんだ日常の足下にも、いろいろな謎が隠れています。そんな隠れた謎を考える営みが哲学です。今回は、赤いトマトをめぐる奇妙な問いを取り上げます。それによって、哲学という営みの一端に触れてもらえれば、と思います。

授業② 地域科学コース「「お祭り」はなぜ続けるべきか？」（及川 高：民俗学）

日本では古くから地域コミュニティを母体とした「お祭り」が行われてきました。近代以降は娯楽化が進んだお祭りですが、近年それが果たす社会的機能が注目されています。そうした現代的意義を民俗学の立場から講義します。

A2 教室（くまトヨ講義室）： 歴史資料学コース／超域歴史学コース【定員 155】

授業① 歴史資料学コース「考古学ってどんな学問？ 古墳時代ってどんな時代？」（杉井 健：考古学）

考古学は高校の教科にありません。では、考古学ってどのような学問なのでしょう。日本史や世界史などと比較しながら考えます。その上で、古墳時代はどのような時代か、古墳時代を研究する目的は何かを考えます。

授業② 超域歴史学コース「中国の皇帝制度とその発達」（小林 晃：アジア史学）

現在、世界で元号が存在する国は日本だけですが、では元号はどこから来たのでしょうか？ 日本の伝統と考えられている物事の多くが実は中国を発祥としています。この授業では、中国の皇帝制度がどのようなもので、その権力がどのように発達したのかを概観します。

A3 教室： 現代文化資源学コース【定員 120】

授業① 現代文化資源学コース「映画を分析的に見てみよう」（伊藤 弘了：現代文化資源学）

みなさんは映画を見るときにどんなことを意識していますか？ 今回は、作り手の視点に立って映画を見る練習をします。さまざまな仕掛けを意識すると、映画の見方がガラッと変わるはずです。ぜひその奥深さに驚いてください。

B1 教室： 欧米言語文化学コース／東アジア言語文化学コース【定員 270】

授業① 欧米言語文化学コース「ドイツ語への招待—言語と社会のつながりを考えよう—」

（トビアス・バウアー：独語独文学）

自動翻訳が進化する今、外国語を学ぶ意味はあるのでしょうか？ 「言語のしくみ」を知ることは、現在の社会問題を考えることにつながります。例えば、ドイツ語の男性・女性・中性という「文法的性」は、ジェンダー平等の議論と強く関わっています。ドイツ語がどのようにドイツの社会や文化を形づくっているのか、一緒に探ってみましょう！

授業② 東アジア言語文化学コース「歌われる漢詩、読まれる音楽—中国古典詩と音楽—」

（屋敷 信晴：中国語中国文学）

中国の古典詩は音楽と深い関わりを持っています。そもそも詩の起源は歌謡であると言われ、我々の知る詩の中には宴席で歌われていたものもあります。この授業では中国の古典詩と音楽の関係について紹介し、さらに唐を代表する詩人白居易の「メロディを言葉で表現する」という試みについて考えます。